

近畿厚生局長 殿

滋賀医科大学医学部附属病  
病院長 柏木 厚典

印

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成23年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	医科 95.8人	歯科 5.8人
--------	----------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

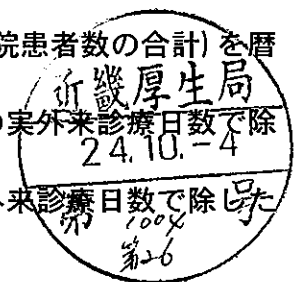
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	225人	135.4人	360.4人	看護補助者	30人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	6.8人	10.8人	理学療法士	10人	臨床検査技師	34人
薬剤師	26人	12.9人	38.9人	作業療法士	4人	臨床検査衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	22人	2人	24.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	550人	44.3人	594.3人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	50人
管理栄養士	5人	5.7人	10.7人	診療放射線技師	29人	その他の職員	23人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	516.5人	6.1人	522.7人
1日当たり平均外来患者数	1,216.8人	55.8人	1,272.6人
1日当たり平均調剤数			1,107.90剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
<sup>31</sup> P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変非侵略的診断	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	10人
抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCT-DST法)	129人
超音波骨折治療法	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	2人
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	6人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	32人
マイクロ波子宮内膜アブレーション	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	不整脈疾患の遺伝子診断	取扱患者数	240人
当該医療技術の概要(循環器内科)			
DNAシーケンサーを用いてブルガタ症候群、ARVC等の遺伝子を行っており、現在では全国各地から診断依頼がある			
医療技術名	既治療後に再発/増悪を来した非小細胞肺癌(非扁平上皮癌)に対する2次または3次治療としてのエルロチニブ/ペバシズマブ併用療法・第Ⅱ相試験	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要(呼吸器内科)			
進行非小細胞肺癌の2次あるいは3次治療として既に有効性が確認されているエルロチニブに、扁平上皮がん以外の非小細胞肺癌に対して2009年に新たに認可されたペバシズマブの併用療法の安全性と有効性を確認する。			
医療技術名	遺伝子多型診断によるC型慢性肝炎の治療効果予測	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
C型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン療法の治療効果予測に関わる既報のIL28B遺伝子多型を、独自に設計したTaqMan PCR法を用いて解析し、適切な治療方針の決定を行う。			
医療技術名	遺伝子多型診断によるC型慢性肝炎の治療副作用発現予測	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
C型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン療法の貧血副作用発現に関わる既報のITPase遺伝子多型を、独自に設計したTaqMan PCR法を用いて解析し、適切な治療方針の決定を行う。			
医療技術名	遺伝子多型診断による炎症性腸疾患の免疫調節療法の適正化	取扱患者数	332人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
炎症性腸疾患に対する免疫調節療法における6MP/azathioprineの適正な用法・容量を、同薬剤の代謝経路で日本人に多いMRP-4とITPaseの遺伝子多型を独自に設計したTacMan PCR法にて解析し、顆粒球減少などの副作用発現予測により行う。			
医療技術名	クローン病に対する生物製剤療法の適正化	取扱患者数	125人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
クローン病治療における生物製剤(抗TNF $\alpha$ 製剤)に対する二次無効を、独自に開発した同製剤に対する抗体検出法を用いて解析し、適正な生物製剤療法(増量、多剤への切り替え)を実施する。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するタクロリムスの経静脈投与の有用性について	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
難治性の潰瘍性大腸炎に対して、経口投与によるタクロリムスはステロイド抵抗性の潰瘍性大腸炎に対し、2009年よりすでに保険適応がある。しかし、経口投与によるタクロリムスは吸収率の個人差が大きく、有効かつ安全な至適血中濃度を得るには1週間程度の時間を要することが問題となる。タクロリムスを経静脈的に投与し、より早期の治療反応が期待できる。			
医療技術名	クローン病狭窄部へのステロイド剤局注有用性の検討	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
近年、バルーン小腸内視鏡が開発され、クローン病の狭窄に対しバルーン拡張術を施行することによりある程度の狭窄拡張が可能となっているが、依然として早期に再狭窄を来すケースがある。ステロイド剤(トリアムシノロン)をバルーン拡張後に狭窄部に局注することにより狭窄拡張効果がより高まる可能性が期待できる。			
医療技術名	悪性肝門部狭窄に対するチューブステントの意図的胆管内留置	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
悪性胆道狭窄による黄疸の解除にプラスチックチューブステントを使用するが、一般的には狭窄部を越えて十二指腸まで留置するため食物残渣が詰まることにより早期の閉塞を来す。そこで胆管内に市販のプラスチックチューブステントをそのまま胆管内に留置、あるいは8~10cmのナイロン糸を取り付けた後、胆管内に留置することにより開存期間の延長を期待する。			
医療技術名	慢性C型肝炎患者におけるIL-28遺伝子多型の検討	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
慢性C型肝炎の治療において、IFN治療に抵抗する要因として慢性C型肝炎患者のIL28B近傍の遺伝子多型(rs12979860, rs8099917)が関与しているという報告が注目を集めている。本研究では、IFN治療を行うHCV患者にたいしIL-28遺伝子多型をdirect sequence法、Taqman PCR法にて検索、IFN治療抵抗性の要因となっているかを検討する。			

医療技術名	慢性C型肝炎患者におけるITPA遺伝子多型とPEG-IFN製剤およびRibavirin併用療法の治療効果および副作用発現に対する検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
慢性C型肝炎の治療において、IFN治療に伴う貧血の要因としてITPA遺伝子の多型が関与しているという報告が注目を集めている。本研究では、IFN治療を行うHCV患者にたいしITPA遺伝子多型をdirect sequence法、Taqman PCR法にて検索、IFN治療に伴う貧血の要因となっているかを検討する。			
医療技術名	多施設共同ランダム化介入比較試験「自己免疫性膵炎の再発に対するステロイド維持療法の有用性についての臨床研究」	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
自己免疫性膵炎の初期治療、特に経口プレドニゾロン内服による緩解導入療法については一定のコンセンサスが得られ汎用されている。一方、緩解導入治療後の維持療法については、適応症例、経口ステロイド剤の維持量、維持療法期間を含め、その可否についてコンセンサスが得られていない。ステロイド維持療法の可否を検討するため、厚生労働省難治性膵疾患研究班に参加し無作為化比較試験(RCT)を行う			
医療技術名	急性膵炎の早期診断と重症化予知に関する尿中trypsinogen-2測定の有用性に関する多施設共同臨床研究	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
膵酵素の一つであるトリプシン(trypsin)の前駆物質trypsinogen-2は、急性膵炎の発症早期から尿中に排泄されることが知られている。今まで迅速かつ簡便な診断法が行えなかった実地臨床では、この迅速測定法によって、急性膵炎の診断やその除外が可能となり、急性膵炎患者の早期からの適切な施設への転送や治療が可能となり、急性膵炎患者の重症化の抑制とともに生命予後の改善が期待される。			
医療技術名	早期慢性膵炎および慢性膵炎疑診例の前向き予後調査	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
慢性膵炎臨床診断基準2009にて早期慢性膵炎の概念が取り入れられて以来、従来に比較してより早期の膵障害の拾い上げが可能となったが、早期慢性膵炎の臨床的意義については依然症例の積み重ねが必要である。早期慢性膵炎および慢性膵炎疑診症例の病態および治療の有無による転帰を検討する目的にて、厚生労働省難治性膵疾患研究班に参加し、前向き予後調査を実施する。			
医療技術名	術後食道狭窄に対するステロイド剤局注有用性の検討	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
良性食道狭窄に対して内視鏡的バルーン拡張術を行っているが、治療抵抗性の狭窄に対してステロイド局注が効果があるとの報告がありその有用性について明らかにする。			
医療技術名	日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病(CML-CP)を対象とした観察研究	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科)			
わが国における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病(CML-CP)患者を対象とした前向き観察研究を行い、CML治療の全体像と治療成績を把握する。また、微小残存病変を国際標準法であるQRT-PCR法で測定し海外データとの比較を行うとともに、初診時の予後因子であるSokal score、イマチニブ/2nd TKI血漿中濃度、BCR-ABL遺伝子変異などが各治療法別の予後へ及ぼす影響を評価することを目的とする。			
医療技術名	成人core binding factor 急性骨髄性白血病に対するシタラビン大量療法でのKIT遺伝子型別反応性を評価する臨床第IV相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科)			
成人core binding factor 急性骨髄性白血病症例を対象に、寛解後療法としてシタラビン大量療法を行った際のKIT遺伝子変異の有無による治療反応性の違いを検討し、シタラビン大量療法の最適な使用法を明らかにすることを目的とする。			
医療技術名	FLT3/ITD変異陽性成人急性骨髄性白血病を対象とした同種造血幹細胞移植療法の有効性と安全性に関する臨床第II相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科)			
成人core binding factor急性骨髄性白血病・急性前骨髄球性白血病を除く成人急性骨髄性白血病でFLT3 internal tandem duplication (FLT3/ITD) 変異を有する症例を対象に、第一寛解期での同種造血幹細胞移植療法の有効性と安全性を評価することを目的とする。			
医療技術名	染色体・遺伝子変異が成人急性骨髄性白血病の予後に及ぼす影響に関する観察研究実施計画	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科)			
染色体異常および急性骨髄性白血病(AML)の発症・進展・予後に影響を及ぼす可能性が示唆されている遺伝子変異を網羅的に解析することにより、これらが単独または複合的に成人AMLの予後に与える影響を検討し、分子病態に基づく個別化治療を行う上での層別化因子となりうる分子病型を明らかにする			

医療技術名	日本成人白血病治療共同研究グループ参加施設に新たに発生する全AML、MDS、全CMML症例を対象とした5年生存率に関する観察研究(前向き臨床観察研究)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科)			
JALSG参加施設において新規に診断された全ての急性骨髄性白血病(AML、WHO分類による定義)と骨髄異形成症候群(MDS、WHO分類による定義)、慢性骨髄単球性白血病(CMML、WHO分類による定義)を登録し、(1)AML全体の5年生存率ならびに(2)MDS全体の5年生存率、(3)CMMLの5年生存率を検討するための前向き臨床観察研究を実施する。			
医療技術名	難治性移植片対宿主病における生物学的製剤の有効性、安全性並びに長期予後に関する第2相臨床研究	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科)			
急性移植片対宿主病(GVHD)に対する初期治療としては、ステロイドが用いられるが、ステロイドに反応しない場合やステロイド減量中に増悪した場合ステロイド抵抗性(難治性)GVHDと定義され、新たな治療戦略が必要となる。TNF $\alpha$ を標的としたサイトカイン遮断療法(インフリキシマブ)およびATG用いた免疫抑制療法を難治性GVHDの治療に適應し、効果と安全性ならびに長期予後を検討する。			
医療技術名	糖尿病患者における持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連の解明	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要(糖尿病内分泌内科)			
血糖コントロール不良状態では、糖尿病性血管合併症(網膜症・腎症・神経障害・動脈硬化症)の発症率を増悪させることが証明されている。また食後の急峻な血糖上昇は動脈硬化・動脈硬化性疾患の独立した危険因子として確立されている。そのため、血糖日内変動の把握の重要性が提唱されている。しかし、これまで血糖モニターの方法として最も汎用されているのは1日数回程度の自己血糖測定であるが、24時間の血糖コントロールの全容を把握し得なかった。近年、米国で24時間連続的に5分毎の平均血糖値を測定する持続血糖測定器が開発され、日中・夜間を問わず血糖コントロールの全容を把握することが可能となった。持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連を検討し、糖尿病性血管合併症の発症阻止のための新たな治療戦略を構築することが可能となる。			
医療技術名	先天性甲状腺機能低下症の遺伝子解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(小児科)			
新生児マススクリーニングで診断される先天性甲状腺機能低下症の原因遺伝子(DUOX2, TSHR, TPO, NIS, THRB, DEHAL1)の遺伝子変異の同定を行い、診断する。			
医療技術名	ケラチン病の遺伝子診断	取扱患者数	5人程度
当該医療技術の概要(皮膚科)			
先天性表皮水疱症の遺伝子診断を行う			
医療技術名	自己免疫性水疱症に対するガンマグロブリン大量静注療法における抑制性	取扱患者数	2から5人
当該医療技術の概要(皮膚科)			
天疱瘡、ならびに類天疱瘡患者の免疫グロブリン大量療法で、抑制性B細胞の関与を検討する			
医療技術名	色素失調症の遺伝子診断	取扱患者数	0から1人
当該医療技術の概要(皮膚科)			
色素失調症の遺伝子診断を行う			
医療技術名	ゴルツ症候群の遺伝子診断	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(皮膚科)			
ゴルツ症候群の遺伝子診断を行う			
医療技術名	病理病期1B/2/3A期非小細胞肺癌完全切除例に対する術後補助化学療法としてのドクタキセル+ネダプラチン併用療法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(呼吸器外科)			
病理病期1B/2/3A期非小細胞肺癌完全切除症例に対して術後補助化学療法としてのドクタキセル+ネダプラチン併用療法を実施し、本レジメンに認容性と有効性について評価する。			
医療技術名	標準療法不応の肺癌に対する複合免疫細胞療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(呼吸器外科)			
標準療法不応の進行・再発肺癌に対してがん抗原MUC1を標的にした樹状細胞ワクチン療法と活性化自己リンパ球移入療法を併用して実施し、有効性について評価する。			

医療技術名	高リスク症例に対するオフポンプ法・両側内胸部動脈バイパス・スケルトナイズ法によるグラフト採取(冠動脈バイパス術)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
<p>オフポンプ法は人工心肺を用いた従来の冠動脈バイパス術と比較して合併症発生率・手術死亡率が低い。また両側内胸部動脈を用いたバイパスは最良の生命予後を提供することが示されてきた。さらに重要な点は、これらの利点が、近年我々が遭遇する患者の大部分を占める高リスク症例でより早期からより著明となることである。しかし欧米での普及率はオフポンプ法20%・両側内胸部動脈4~10%と低い。理由は、術後胸骨感染と右内胸部動脈の使用法に対する懸念が考えられる。スケルトナイズ法はこれらの懸念を解決し得るが、高度な技術が要求されるため、容易ではない。我々は、過去10年間に単独冠動脈バイパス術を約1000例行い、術前心停止症例6例を除き全例オフポンプ法で完遂、スケルトナイズ法を全例に、両側内胸部動脈を約60%の症例に用いてきた。その成果は、平成22年度だけで主要ジャーナルに16編採択された。</p>			
医療技術名	小型トランスデューサーを備えた高周波超音波装置(冠動脈バイパス)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
<p>冠動脈バイパス術は強力な生命予後改善・心筋梗塞予防効果を有することが示されてきた。その効果は、バイパス血管が良好に開存している限り保証される。高い開存率を維持するために良質なバイパス血管の確保や、熟練した外科医の技術が不可欠となるのは言うまでもないが、加えて、吻合を行う標的冠動脈の正確な同定と適切な吻合部位の選択も同様に重要な要素である。現在、バイパス血流の有無、吻合の質の評価方法は冠動脈造影がゴールドスタンダードだが、術中の冠動脈造影は現実的でなく、外科医は吻合の際の感覚や自らの経験を頼りに手術の出来を判断せざるを得ないのが実情であった。我々は平成22年度から術野で使用可能な小型トランスデューサーを備えた高周波超音波装置を臨床応用し、標的冠動脈の同定・至適吻合部位の選択・吻合部位の形態評価などに使用してきた。国内のごく少数の施設でのみ臨床使用されており、先駆的立場で我々の経験を、国内の主要学会で発表している。</p>			
医療技術名	小血管画像理データ処理システムを用いた冠動脈バイパスグラフトの術中評価	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
<p>我々は、術中に肉眼的にバイパスグラフトやその他の血管系の評価をする新しい装置を臨床応用しており、より質の高い手術を提供する一助となっている。この装置は、造影剤としてICG(インドシアニングリーン)を用い、これにシステム本機から出る近赤外線当ててことで、血管中に流れるICGを蛍光発色させ、システムのアームヘッドについて特殊CCDカメラがそれを捉え動画として本機に付属したモニターに映し出すことで、血流の有無を確認することが出来る。</p>			
医療技術名	僧帽弁閉鎖不全症に対するバタフライ切除	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
<p>僧帽弁後尖の変性病変に対してこれまでに様々な切除方法が提案・議論されてきた。我々は、従来の切除方法にはない新しい特徴を有する「バタフライ切除」を提唱・臨床応用してきた。23年度の米国胸部外科学会においてこれまでの臨床成果を口頭発表し、その内容は当分野の主要ジャーナルに採択された。</p>			
医療技術名	弓部大動脈置換術の末梢側吻合における独自の工夫による視野展開	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
<p>弓部大動脈置換術の大動脈末梢側吻合は視野が深く狭いため技術的に困難な手技のひとつである。この末梢側吻合を確実に行うことが出血の少ない短時間の手術、つまり患者負担の少ない手術に必須である。我々は、既製のデバイスを独自の工夫で用いることでより良好な視野を得、確実な末梢側吻合を行い、安定した良好な成績を残してきた。その成果を国内の主要学会で発表を行い、定評を得ている。</p>			
医療技術名	関節軟骨欠損に対する軟骨移植術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(整形外科)			
<p>関節軟骨損傷に対する治療は、整形外科領域の古くからのテーマであるが、線維性軟骨で修復する方法は報告されているが損傷された関節軟骨を硝子軟骨で修復することは困難であった。1993年我々により最初に報告された複数の自家骨軟骨片のプレスフィット移植(モザイクプラスティ)により関節軟骨の硝子様軟骨での再生がかなり可能になってきた。関節軟骨修復に対するモザイクプラスティは、膝関節の大腿骨顆部辺縁部の比較的荷重のかからない部位から採取した複数の小さな円柱状軟骨片により、荷重部位の軟骨欠損を修復する方法である。軟骨採取用の手術器具がすでに市販されており、これを用いて膝関節を中心に関節軟骨欠損の治療を行っている。本法を関節鏡視下に行うことにより患者さんに侵襲のより小さい手術を工夫して試みている。</p>			
医療技術名	コンピュータ・ナビゲーションを用いた脊椎手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(整形外科)			
<p>脊椎固定術において、脊髄・椎骨動脈・その他の脊椎周囲臓器を損傷することなく骨固定スクリューを挿入する必要がある場合が多くある。従来の確認方法は術中X線撮影やX線透視で挿入位置や方向を確認するものであるが、このたび新しくコンピュータ・ナビゲーションによる手術支援装置を用いることで、固定術のインプラント挿入に起因する合併症をより有意に減らすことが可能となっている。術前CT画像を元にしたナビゲーションシステムを用いて、正確さと精密さを要求される頸椎椎弓根スクリューの挿入もより安全に行えるようになった。適応は主として頸椎胸椎の金属インプラントを用いた固定術で、今後さらなる応用が見込まれる新技術である。</p>			

医療技術名	MIB-1を用いた脳腫瘍増殖能の計測	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
腫瘍の増殖速度を知ることは、患者の予後を推定し治療法を決定する上で重要な役割をはたすと考えられる。主要な増殖脳測定のため、さまざまな方法が考案されているが、従来用いられていた方法はいずれも通常ホルマリン固定パラフィン包埋標本で簡便に行うには多少の問題点があった。最近、通常の手術標本でも増殖中の細胞に出現するKi-67 antigenを染色可能なMIB-1抗体が開発され、比較的容易に腫瘍の増殖能を知ることができるようになった。これを用いて脳腫瘍の診断、予後の予測をおこない、治療法の選択に反映させている。			
医療技術名	MRSによる認知症の早期診断と知能評価	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
社会の高齢化に伴い認知症患者の増加が問題となっているが、従来の医療技術ではアルツハイマー病などの原発性変性痴呆患者の早期診断や、その病状の客観的な評価は困難と言われている。当科では以前より通常のMR画像装置をもちいて、脳のN=acetyl aspartate (NAA)の半定量を行ってきた。N=acetyl aspartate (NAA)はproton MRSにより測定可能であるが、その代謝経路や生物学的意義は今のところ明らかでない。この物質は神経細胞にだけ多く含まれており、ある程度の相関関係が認められており、またニューロトランスミッターの前駆体と推測されている。そこで、健常者と認知症患者のNAAを測定し比較することにより、1)アルツハイマー病の早期診断法としての有用性、2)脳の活動性の客観的指標としての有用性、につき検討してきた。この結果、原発性変性痴呆患者では健常者に比べ有意にNAAの低下を認めた。また、正常圧水頭症では痴呆症状があるにもかかわらず有意なNAAの低下は認められず、手術により痴呆症状の改善を認めている。以上のことから、NAAの測定を、原発性変性痴呆症の早期診断や予後推測に用いた。今後はさらに、原発性変性痴呆症の知的レベルや進行度とNAA量との比較や可塑性についても検討する。			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
運動や言語、記憶など高次脳機能を司る領域付近に発生した病変を摘出する際に上記機能障害を最小限とし、機能を温存するために摘出術中に麻酔から覚醒させ機能障害の出現を確認しながら病変を最大限摘出することを可能とする記述である。実施に際してはSEP、MEP、脳波などを活用し各種モニターを使用することで安全に行う。			
医療技術名	術中ICGビデオアンギオグラフィーによる血管、血流評価	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
肝臓、網膜の血管描出に使われるインドネシアイングリーンを使用し、手術顕微鏡に搭載した特殊フィルターを通して観察することで、脳および脊髄血管手術の際に、簡便かつ安全に術中血管撮影を行い対象血管病変の根治性の向上と手術安全性をえられる手技である。			
医療技術名	液体塞栓物質による頭蓋内、脊髄病変塞栓術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
脳動静脈奇形、脊髄動静脈奇形、硬膜動静脈瘻などの病変に対して流入血管や病変自体を血管内手術手技利用し、液体塞栓物質によって塞栓させることでその後の外科手術をより安全に行える。			
医療技術名	悪性神経膠腫に対するテモゾロミド治療効果寄与因子の検討	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
手術中に得られた組織からMGMT因子を測定し、腫瘍に対する抗がん剤の感受性を知ることが出来る。MGMT陽性、陰性によりテモゾロミドの効果が大きく異なるため、その結果を基に選択的に使用する。			
医療技術名	体外受精胚移植法	取扱患者数	175人
当該医療技術の概要(母子診療科)			
採卵により体外に卵子を取り出し、体外で精子と受精させ、胚(受精卵)を培養し、形成された胚を子宮腔に移植する方法である。			
医療技術名	顕微授精	取扱患者数	79人
当該医療技術の概要(母子診療科)			
乏精子症などに施行する技術。体外受精の1種で(体外受精から独立していると言う考えもある)精子を直接卵子に注入する方法である。			
医療技術名	網膜疾患に対するbevacizumab硝子体内投与の治療効果	取扱患者数	260人
当該医療技術の概要(眼科)			
糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、新生血管黄斑症の中で眼内新生血管、黄斑浮腫を有する症例には有効な治療法がない。そのような難治性症例に対し、抗VEGF薬(bevacizumab)を硝子体内に投与し、治療効果の検討を行う。			
医療技術名	椎間板性腰痛に対する高周波熱凝固法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
難治性の椎間板性腰痛に対し、X線透視下に専用の電極を挿入し、椎間板後部に入り込んだ神経を、高周波熱凝固法、パルス高周波法で治療し、鎮痛を図る。			



医療技術名	難治性疼痛患者に対するRACZカテーテル治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 (ペインクリニック科)			
硬膜外腔、神経根の癒着が原因となっている難治性の脊椎手術後疼痛に対し、X線透視下に専用のスプリングコイルカテーテルを仙骨列孔から挿入し、化学的神経剥離術を行うことで、鎮痛を図る。			
医療技術名	核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた機能的脳画像評価	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 (ペインクリニック科)			
核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いて、痛みの不快情動処理、認知に関連する前帯状回において、神経機能の指標であるNAA(Nアスパラギン酸)、抑制系ニューロンの伝達物質であるGABAを測定し、機能的脳機能画像評価を行う。			
医療技術名	VBM (voxel-based morphometry)を用いた機能的脳画像評価法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 (ペインクリニック科)			
3D-MRIを応用、脳内組織の容積を直接測定するVBMの、滋賀医大で開発したソフト(VAAD)を用いて、超高速で脳の局所の体積を検討する形態学的画像診断法。脳内の情動処理系の部位、内因性鎮痛系に関連する部位の委縮程度を測定する。			
医療技術名	320列MDCTを用いた局所肺機能評価法の開発に関する研究	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要(放射線科)			
320列MDCTを用いて、吸気呼気での肺葉のvolume dataを撮影後、自動葉間認識が可能なソフトウェアを用いて、肺葉の容積、濃度やヒストグラムを自動計測、吸気レベルに依存しない局所閉塞性障害指標の確立する。			
医療技術名	敗血症性DICによる多臓器障害の凝固学的検討と血液浄化法の有効性の検討	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部)			
敗血症は高頻度にDICを併発し、その場合多臓器障害となることが知られている。この病態において、敗血症による凝固活性化によるDICと、これに伴う微小循環障害、さらに高サイトカインあるいはエンドトキシンにより多臓器障害が発症するものと考えられている。よって、この病態に対する治療として、敗血症の原因治療に加え、嚴重なDICの管理と高サイトカインやエンドトキシンに対する対策が必要と思われる。そのためには、迅速かつ詳細な凝固学的検査とサイトカイン除去法が必須である。我々は、本院中央検査部とともにLPIA法による測定法の開発と設定を行い、またサイトカインあるいはエンドトキシン除去に対し、積極的に持続的血液濾過法やエンドトキシン吸着法、さらに我々開発したPlasma Filtration with Dialysis(PFD)療法を施行し、的確な診断と病態解析、およびその治療を行い、世界標準データである院内死亡率49.6%に対し、24.4%と優秀な生存率を示している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	28人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	23人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	39人
・全身性エリテマトーデス	100人	・重症急性膵炎	10人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	50人
・再生不良性貧血	18人	・混合性結合組織病	15人
・サルコイドーシス	30人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	11人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	65人	・網膜色素変性症	19人
・特発性血小板減少性紫斑病	41人	・プリオン病	0人
・関節性動脈周囲炎	12人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	329人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	6人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	1人
・天疱瘡	19人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	28人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	148人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	1人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	64人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	4人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・後縦靭帯骨化症	36人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	8人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	4人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	59人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	3人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	25人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
先天性QT延長症候群の家族内調査による遺伝的多様性の検討と治療指針の決定	堀江 稔	循環器内科	7,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
早期再分極(early repolarization)症候群の病態と遺伝基盤、長期予後に関する研究	堀江 稔	循環器内科	1,300,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
進行性心臓伝導障害の病態診断と遺伝子基盤に関する研究	堀江 稔	循環器内科	900,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
遺伝性不整脈発症の分子基盤に関する統合的研究	堀江 稔	循環器内科	7,150,000	補委 文部科学省科学研究費
ヒトiPS細胞由来心筋樹立による家族性突然死症候群の病態解明と治療法の確立	堀江 稔	循環器内科	1,500,000	補委 日本循環器学会
難治性心房細動に対するカテーテル治療の評価法および再発予測因子に関する研究	伊藤 誠	循環器内科	910,000	補委 文部科学省科学研究費
多階層データに基づく心臓電気現象の統合的機能シミュレーション	芦原 貴司	循環器内科	390,000	補委 文部科学省科学研究費
ヒト両心房モデル構築を基盤とした慢性心房細動とその治療に関するインシリコ研究	芦原 貴司	循環器内科	910,000	補委 文部科学省科学研究費
特発性間質性肺炎CT画像の自動解析法の開発とその検証	中野 恭幸	呼吸器内科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費
計算解剖モデルに基づく診断支援	中野 恭幸	呼吸器内科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	藤山佳秀	消化器内科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費助成金
原因不明小腸潰瘍症の実態把握、疾患概念、疫学、治療体系の確立に関する研究	藤山佳秀	消化器内科	500,000	補委 厚生労働科学研究費助成金
Dection-1を介した樹状細胞制御に基づく炎症性腸疾患の病態解明と治療薬の開発	藤山佳秀	消化器内科	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
大腸筋線維芽細胞由来IL-24を標的とした新たなIBD治療法開発の基礎検討	安藤 朗	消化器内科	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
クローン病線維性狭窄の危険因子解明	辻川知之	消化器内科	2,470,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
筋線維芽細胞制御に基づく腸管上皮細胞再生機構の開発の基礎的検討	馬場重樹	消化器内科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
MRP4遺伝子多型解析による炎症性腸疾患に対するテーラーメイド免疫療法の構築	伴 宏充	消化器内科	2,210,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
アンチセンスMIF/SPG複合体による腸炎抑制効果に対する研究	藤山佳秀	消化器内科	3,000,000	補委 受託研究費

小計  
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
HIV感染者等保健福祉相談事業	藤山佳秀	消化器血液内科	1,000,000	補 委 受託研究費
果糖応答性転写調節因子群の同定、その分子機構と病態的意義	柏木 厚典	糖尿病内分泌内科	910,000	補 委 文部科学省科学研究費
環境応答遺伝子としてのTFAP2Bのメタボリックシンドローム発症における役割	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,430,000	補 委 文部科学省科学研究費
多価不飽和脂肪酸を用いた血管内皮抗酸化システムの活性化戦略の意義を明らかにする	西尾 善彦	糖尿病内分泌内科	2,210,000	補 委 文部科学省科学研究費
新規内臓脂肪量マーカーの臨床応用	卯木 智	糖尿病内分泌内科	2,860,000	補 委 文部科学省科学研究費
新規ミトコンドリア機能調節因子Aの発現低下と糖尿病発症の関係	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,560,000	補 委 文部科学省科学研究費
糖尿病における魚食の有効性に関する研究	近藤 慶子	糖尿病内分泌内科	2,470,000	補 委 文部科学省科学研究費
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験	前川 聡	糖尿病内分泌内科	2,300,000	補 委 J-D01T3(糖尿病合併症を抑制するための介入試
メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現(新規2型糖尿病関連遺伝子の同定と機能解析)	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,270,000	補 委 文部科学省研究振興局長
DPP-4阻害薬シタグリプチンの血管内皮機能への影響	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	1,400,000	補 委 財団法人地域医学研究基金
腎尿細管細胞オートファジーを標的とした慢性腎臓病におけるメカニズムの解明	宇津 貴	腎臓内科	1,040,000	補 委 文部科学省科学研究費
新規糖尿病性腎症治療標的分子としてのuPARの基礎的・臨床的意義の解明	荒木 信一	腎臓内科	910,000	補 委 文部科学省科学研究費
肥満・加齢に関連した慢性腎臓病悪化進展因子の同定	久米 真司	腎臓内科	1,690,000	補 委 文部科学省科学研究費
肥満ならびに加齢に伴う慢性腎臓病の悪化機構における腎尿細管細胞オートファジーの関与	久米 真司	腎臓内科	3,000,000	補 委 公益財団法人武田化学振興財団
オルガネラ異常の是正と糖尿病性腎症治療	久米 真司	腎臓内科	2,000,000	補 委 公益財団法人上原記念生命科学財団
有痛性糖尿病神経障害発症における中枢神経系疼痛抑制経路の役割	真田 充	神経内科	1,170,000	補 委 文部科学省科学研究費
組織特異的ペプチドを用いた神経疾患への分子治療法および体外イメージングの開発	寺島 智也	神経内科	1,820,000	補 委 文部科学省科学研究費
肺癌・食道癌の迅速病態診断系の構築:未病・早期癌検出と悪性度評価による個別化治療	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	5,590,000	補 委 文部科学省研究振興局長
遺伝素因による発癌病態の解明と癌予防に向けた創薬開発	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	1,300,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
標準療法不応の肺がんにも有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	150,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	39,000,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
がんのオーダーメイド医療の開発を目指した早期診断マーカーの探索とその分子標的治療への応用	高野 淳	腫瘍内科	2,000,000	補委 滋賀医科大学学長裁量経費による助成
肺がんの新規血清診断、予後マーカーLASEP3の同定	高野 淳	腫瘍内科	200,000	補委 滋賀医科大学学長裁量経費による助成
肺癌の早期診断マーカーの探索と分子標的治療への可能性の検討	高野 淳	腫瘍内科	1,365,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
小児固形腫瘍領域で欧米臨床導入済みの国内適応外抗腫瘍薬のエビデンス確立のための研究	多賀 崇	小児科	15,600,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
小児急性骨髄性白血病(AML)に対する標準的治療法の確立	多賀 崇	小児科	17,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
大脳皮質奇形ハムスターを用いたけいれん準備性の発現基盤の解析	高野 知行	小児科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費
B1-B細胞の抑制性機能に関する検討	藤本 徳毅	皮膚科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
汎用MRを使う生体内部構造透視画像下内視鏡手術システムの開発	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	5,005,000	補委 (独) 科学技術振興機構研究成果最適展開支援事業(A-STEP)
体腔鏡手術ロボット技術が拓く高度先進医療の研究開発	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	43,195,000	補委 文部科学省 都市工リア産学官連携促進事業
新しいエンドトキシン測定法による敗血症の評価	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科	2,730,000	補委 文部科学省科学研究費
直腸肛門希形マウスを用いた器官培養による分子生物学的解析及び胎仔治療への応用	久保田 良浩	消化器外科 乳腺・一般外科	910,000	補委 文部科学省科学研究費
リンパ管浮腫に対する細胞移植療法の臨床応用	塩見 尚礼	消化器外科 乳腺・一般外科	650,000	補委 文部科学省科学研究費
拡張現実を用いたMR画像支援下内視鏡手術システムの開発	仲 成幸	消化器外科 乳腺・一般外科	780,000	補委 文部科学省科学研究費
毛髪内微量元素解析を用いた乳癌スクリーニング法に関する研究	張 弘富	消化器外科 乳腺・一般外科	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費
出血性ショック後の循環動態への抹消神経の関与とその制御	赤堀 浩他	消化器外科 乳腺・一般外科	910,000	補委 文部科学省科学研究費
坐位MRIによる下骨盤底筋群および直腸肛門機能評価	遠藤 善裕	消化器外科 乳腺・一般外科	2,340,000	補委 文部科学省科学研究費

小計  
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	目片 英治 (分担)	消化器外科 乳腺・一般外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
生活習慣病を合併する病的肥満症患者に対する減量手術の費用便益分析	山本 寛 (分担)	消化器外科 乳腺・一般外科	260,000	補委 文部科学省科学研究費
骨髄由来未分化間葉系細胞を用いた肩腱板断裂の非侵襲的治療の試み	松末 吉隆	整形外科	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科	1,500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
未破裂脳動脈瘤の治療の評価技術の開発に関する研究	野崎 和彦	脳神経外科	4,585,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
脳動脈瘤発生増大破裂の機構解明と新規治療法の開発	野崎 和彦	脳神経外科	6,110,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
未破裂脳動脈瘤の各磁気共鳴生体イメージングによる追跡と破裂予測システムの構築	野崎 和彦	脳神経外科	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
アクチビン制御による早発卵巣不全および卵巣予備能低下者に対する治療法開発	木村 文則	母子・女性診療科	2,210,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
カニクイザルを用いた卵巣臓器全体の凍結技術確立	清水 良彦	母子・女性診療科	2,860,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ミトコンドリアのエネルギー産生および抗酸化に着目した早発卵巣不全およびゴナドトロピン低反応者(卵巣予備能低下者)の治療法開発	木村 文則	母子・女性診療科	コエンザイム(サプリメント)提供400万円相当	補委 資生堂
間接性膀胱炎発症における酸感受性侵害受容器分子(ASICおよびTRPV1)の関与	荒木 勇雄	泌尿器科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト胎児性癌新規マーカーDNMT3Lの機能解析とその臨床応用	岡本 圭生	泌尿器科	7,280,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
膀胱癌発症におけるVariant cyclin D1bの役割の解明	金 哲将	泌尿器科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血管新生黄斑症に対するペプチドワクチン療法	大路 正人	眼科	5,500,000	補委 厚生労働科学研究費
小眼球による視覚障害の原因を特定するための疫学調査と診断・治療基準の創成	西田 保裕	眼科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費
血管内皮増殖因子の眼内動態に関する研究	大路 正人	眼科	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
網膜錐体サイクリックGMP依存性(CNG)チャンネルの機能的解析	村木 早苗	眼科	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
吸入麻酔薬の心筋保護作用に関わる分子基盤の解明	小嶋 亜希子	麻酔科	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
非侵襲的脳内グルタミン酸、GABA測定による痛みの脳機能評価法の確立	福井 聖	ペインクリニック科	2,340,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
慢性の痛み対策 研究事業 慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立に対する研究	福井 聖	ペインクリニック科	600,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
320例MDCTを用いた局所肺機能評価法の開発に関する研究	村田 喜代史	放射線科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
高速核磁気共鳴動画像を用いた腸管蠕動運動の定量解析および腸管機能診断への臨床応用	古川 顕	放射線科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
極小超常磁性体酸化鉄造影ラット脳腫瘍MR像の造影効果に寄与する免疫学的要因の検討	井藤 隆太	放射線科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血管新生阻害薬の多剤併用療法における低侵襲in vivo画像評価法の構築	大田 信一	放射線科	3,120,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
320例CTと二酸化炭素を用いた肝腫瘍栄養血管描出技術の開発	園田 明永	放射線科	2,730,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
マンナン添加超常磁性酸化鉄ナノ粒子を用いた動脈硬化診断法の確立	大谷 秀司	放射線科	2,470,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
薬剤性肺障害ウサギモデルを用いた各種薬剤の治療効果：病理組織とCT画像の対比	渡辺 尚武	放射線科	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
計算解剖モデルに基づく診断支援	高橋 雅士	放射線科	650,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
一般化N次元PCAに基づく人体臓器の統計ボリュームモデリングと診断支援への応用	古川 顕	放射線科	650,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
薬剤性肺障害ウサギモデルを用いたビルヘニドン、エダラボンおよびアシアロエリスロポエチンの薬剤性肺障害に対する線維化抑制効果の検討CT画像と病理像の対比	山本 敦子	放射線科	1,000,000	補委 日本医学放射線学会
力学的ストレス下における軟骨細胞間応答	今井 晋二	リハビリテーション部	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新しいバイオマーカーを用いた癌の診断、治療法の構築	岡部 英俊	臨床検査医学講座	6,890,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
腎細胞癌においてGタンパク共役受容体GPR91が果たす腫瘍生物学的意義について	川上 亨弘	臨床検査医学講座	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
敗血症における高血糖状態の肺不全発症機序	松村 一弘	救急集中治療医学講座	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
肝血流改変と遺伝子導入による全肝機能再生の試み	藤野 和典	救急集中治療医学講座	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
重症患者における多臓器不全発症のメカニズム解明の試み	田畑 貴久	救急集中治療医学講座	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
糸球体上皮細胞のAMPK-ACC経路制御による糖尿病性腎症に対する新たな治療戦略	一色 啓二	血液浄化部	1,170,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
炎症性腸疾患患者のエネルギー代謝に関する臨床的研究	佐々木 雅也	栄養治療部	1,430,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
先天性心疾患モデルラットの全胚培養による刺激伝導系の発生及び細胞機能異常の解明	中川 雅生	臨床研究開発センター	1,430,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
本邦の小児薬物療法の実態調査の研究国立大学附属病院における小児を対象とした治験の現状	中川 雅生	臨床研究開発センター	455,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
DNA・血液サンプルおよび臨床情報の収集	中川 雅生	臨床研究開発センター	8,500,000	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
大学病院における臨床研究教育プログラムのあり方に関する研究 - 臨床研究に対する医師の意識と医学生の臨床実習での意識調査の結果から - (中核病院としての小児治験・臨床研究体制の整備 分担研究)	中川 雅生	臨床研究開発センター	103,836,000 (主任研究者が一括管理)	補 厚生労働科学研究費補助金 委
新規経口分子標的抗がん剤の体内動態・薬効の個体差解明に基づく投与アルゴリズム確立	寺田 智祐	薬剤部	3,900,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
薬物輸送学と腸管免疫学の融合に基づいた炎症性腸疾患の新規薬物治療戦略	寺田 智祐	薬剤部	1,950,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
ABC B4とPEMTによる細胞膜胆汁酸耐性の獲得	森田 真也	薬剤部	1,820,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
酸性リン脂質血中濃度測定法の確立	森田 真也	薬剤部	1,700,000	補 科学技術振興機構 委
ペプチドトランスポーター (PEPT1) を標的とした炎症性腸疾患治療薬のDDS戦略	森田 真也	薬剤部	3,000,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
リン脂質合成酵素とトランスポーターの変異による肝障害発症機構の解明	森田 真也	薬剤部	3,000,000	補 公益財団法人武田科学振興財団 委
Effect of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase on hepatocellular resistance to bile salts	森田 真也	薬剤部	200,000	補 公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団 委

小計  
13計  
104

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circulation Journal 75; 897-904, 2011.	Lipocalin-type Prostaglandin D synthase is associated with coronary vasospasm and vasomotor reactivity in response to acetylcholine.	Horie M et al.	循環器内科
Circ Research 108;458-468, 2011.	Reciprocal control of hERG stability by Hsp70 and Hsc70 with implication for restoration of LQT2 mutant stability.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Journal 75;844-851, 2011.	Risk determinants in individuals with a spontaneous type 1 Brugada ECG.	Horie M et al.	循環器内科
Hypertension Research 34; 448-449, 2011.	Angiotensin-converting enzyme inhibition and fibrinolytic balance.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Journal 75;341-347, 2011.	Biological variation of brain natriuretic Peptide and cardiac events in stable outpatients with nonischemic chronic heart failure.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Arrhythm Electrophysiol. 4(3);352-361, 2011.	KCNE5 (KCNE1L) variants are novel modulators of brugada syndrome and idiopathic ventricular fibrillation.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Cardiovascular Genetics 4; 253-260, 2011.	A novel KCNJ2 nonsense mutation, S369X, impedes trafficking and causes a limited form of andersen-tawil syndrome.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Research 109;97-109, 2011.	Phenotypical manifestations of mutations in genes encoding subunits of cardiac potassium channels.	Horie M et al.	循環器内科
Circ Arrhythm Electrophysiol. 4(3):295-302, 2011.	Japanese Coronary Spasm Association. Clinical characteristics and long-term prognosis of vasospastic angina patients who survived out-of-hospital cardiac arrest: multicenter registry study of the Japanese Coronary Spasm Association.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Journal 75(3); 656-661, 2011.	Prognostic role of high-sensitivity cardiac troponin T in patients with nonischemic dilated cardiomyopathy.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Journal 75(8);1897-1904, 2011.	Relationship between biological variation in B-Type natriuretic peptide and plasma renin concentration in stable outpatients with dilated cardiomyopathy.	Horie M et al.	循環器内科
Pharmacol Physiol. 38(1);34-41, 2011.	Association between brachial-ankle pulse wave velocity and endothelium-dependent and -independent coronary vasomotor function.	Horie M et al.	循環器内科
Biochemi Biophys Acta-Molecular Basis of Disea 1812; 1452-1459, 2011.	Identification and functional characterization of KCNQ1 mutations around the exon7-intron7 junction affecting the splicing process.	Horie M et al.	循環器内科

小計

13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circulation Cardiovascular Genetics 4(5); e20.	Heritability of early repolarization: A population-based study.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology 4(6); 874-881, 2011.	Electrocardiographic Characteristics and SCN5A Mutations in Idiopathic Ventricular Fibrillation Associated with Early Repolarization.	Horie M et al.	循環器内科
American Heart Journal 162(4):639-45, 2011.	Prognostic value of serial measurements of highly sensitive cardiac troponin I in stable outpatients with nonischemic chronic heart failure.	CREDO-Kyoto Investigators.	循環器内科
Circulation Journal 75(6):1358-67, 2011.	Clinical characteristics and outcomes of Japanese women undergoing coronary revascularization therapy.	Horie M et al.	循環器内科
Circulation Journal 75(9):2160-6, 2011.	Effect of atorvastatin vs. rosuvastatin on cardiac sympathetic nerve activity in non-diabetic patients with dilated cardiomyopathy.	Horie M et al.	循環器内科
Journal of Arrhythmia 27; 324-331, 2011.	Carvedilol, a non-selective $\beta$ -with $\alpha$ 1-blocker is effective in long QT syndrome type2.	Horie M et al.	循環器内科
Cardiovascular Intervention and Therapeutics 26: 222- 233, 2011.	Association of the use of proton pump inhibitors with adverse cardiovascular and bleeding outcomes after percutaneous coronary intervention in the Japanese real world clinical practice.	Horie M et al.	循環器内科
Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2011;26:234-245.	Long-term safety and efficacy of sirolimus-eluting stents versus bare-metal stents in real world clinical practice in Japan.	Horie M et al.	循環器内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 22;350, 2011.	Remission of Abnormal Conduction and Repolarization in the Right Ventricle After Chemotherapy in Patients With Anterior Mediastinal Tumor.	Horie M et al.	循環器内科
J Investig Allergol Clin Immunol 21(2):113-119, 2011	Long-term Changes in Airway Wall Thickness on Computed Tomography in Asthmatic patients.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
internal medicine 50:1729-1732, 2011	Respiratory Failure of Williams-Campbell Syndrome is Effectively Treated Noninvasive Positive Pressure Ventilation.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Respiration 82:431- 438, 2011	Plasma Substance P Levels in Patients with Persistent Cough.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
Respiration 82:552- 556, 2011	Erdheim-Chester Disease Presenting with Pneumothorax.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
Proceedings of SPIE. Volume:7965, 2011	Human pulmonary acinar airspace segmentation from three-dimensional synchrotron radiation micro CT images of secondary pulmonary lobule.	Nakano Y et al.	呼吸器内科

小計

14

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
BMJ Case Reports 2011 doi:10.1136/bcr.08.2010.3224, 2011	Diffuse alveolar haemorrhage may be associated with intravitreal injection of bevacizumab in a patient with systemic risk factors.	Nagao T et al.	呼吸器内科
ISRN Gastroenterol. 2011;2011:194324. Epub 2011 May 25.	Immunomodulators and immunosuppressants for Japanese patients with ulcerative colitis.	Bamba S et al.	消化器内科
J Gastrointest Cancer Epub 2011 May 4.	Endoscopic Submucosal Dissection Combined with the Placement of Biodegradable Stents for Recurrent Esophageal Cancer After Chemoradiotherapy.	Mochizuki Y et al.	消化器内科 光学医療診療部
J Gastroenterol. 2011 Apr;46(4):479-86.	Comparison of the fecal microbiota profiles between ulcerative colitis and Crohn's disease using terminal restriction fragment length polymorphism analysis.	Andoh A et al.	消化器内科
J Biol Chem. 2011 Jun 24;286(25):22403-13.	Dendritic cell-specific intercellular adhesion molecule 3-grabbing non-integrin (DC-SIGN) recognizes a novel ligand, Mac-2-binding protein, characteristically expressed on human colorectal carcinomas.	Nonaka M et al.	消化器内科、血液内科
Aliment Pharmacol Ther. 2011 Oct;34(8):941-8.	Faecal chitinase 3-like-1: a novel biomarker of disease activity in paediatric inflammatory bowel disease.	Aomatsu T et al.	消化器内科
Mol Med Report. 2012 Feb;5(2):517-20.	Polymorphism of the inosine triphosphate pyrophosphatase gene predicts ribavirin-induced anemia in chronic hepatitis C patients.	Nishimura T et al.	消化器内科
Mol Med Report. 2012 Feb;5(2):525-8.	Interleukin-28B genotypes determine response to pegylated-interferon plus ribavirin therapy in patients with hepatitis C virus infection.	Nishimura T et al.	消化器内科
J Gastroenterol. 2012 Feb;47(2):136-43.	Development of a new immunoassay for the accurate determination of anti-infliximab antibodies in inflammatory bowel disease.	Imaeda H et al.	消化器内科
Kidney Int.	Fenofibrate, a PPAR $\alpha$ agonist, has renoprotective effects in mice by enhancing renal lipolysis.	Tanaka Y et al.	腎臓内科
Jpn J Ophthalmol.	A case of extraocular muscle swelling due to IgG4-related sclerosing disease.	Higashiyama T et al.	糖尿病内分泌内科
Clin Exp Nephrol.	Association between single nucleotide polymorphisms within genes encoding sirtuin families and diabetic nephropathy in Japanese subjects with type 2 diabetes.	Maeda S et al.	腎臓内科
Diabetes Res Clin Pract.	Aldose reductase C-106T gene polymorphism is associated with diabetic retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes.	Katakami N et al.	糖尿病内分泌内科
Eur Heart J.	Interleukin-7 induces recruitment of monocytes/macrophages to endothelium.	Li R et al.	神経内科

小計

14

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Int J Mol Med.	Postprandial activation of protein kinase C $\alpha$ regulates the expression of adipocytokines via the transcription factor AP-2 $\beta$ .	Kondo M et al.	糖尿病内分泌内科
J Physiol Sci.	Computational assessment of insulin secretion and insulin sensitivity from 2-h oral glucose tolerance tests for clinical use for type 2 diabetes.	Seike M et al.	糖尿病内分泌内科
Free Radic Biol Med.	SIRT3 attenuates palmitate-induced ROS production and inflammation in proximal tubular cells.	Koyama T et al.	腎臓内科
Stroke.	Differential association of docosahexaenoic and eicosapentaenoic acids with carotid intima-media thickness.	Sekikawa A et al.	糖尿病内分泌内科
Kidney Int.	Furosemide-associated nephrocalcinosis and renal cysts.	Uzu T et al.	腎臓内科
Am J Physiol Endocrinol Metab.	Inactivation of TNF- $\alpha$ ameliorates diabetic neuropathy in mice.	Yamakawa I et al.	神経内科
Diabetes Res Clin Pract.	Transforming growth factor $\beta$ 1 T868C gene polymorphism is associated with cerebral infarction in Japanese patients with type 2 diabetes.	Katakami N et al.	糖尿病内分泌内科
Diabetologia.	Genetic variants at CDC123/CAMK1D and SPRY2 are associated with susceptibility to type 2 diabetes in the Japanese population.	Imamura M et al.	腎臓内科
Ann N Y Acad Sci.	Pathogenesis of diabetic neuropathy: bad to the bone.	Chan L et al.	神経内科
FASEB J.	Bone marrow expression of poly (ADP-ribose) polymerase underlies diabetic neuropathy via hematopoietic-neuronal cell fusion.	Terashima T et al.	神経内科
Biochem Biophys Res Commun.	Autophagy regulates inflammation in adipocytes.	Yoshizaki T et al.	糖尿病内分泌内科
Diabetes.	Nutrient sensing, autophagy, and diabetic nephropathy.	Kume S et al.	腎臓内科
Atherosclerosis.	Adiponectin G276T gene polymorphism is associated with cardiovascular disease in Japanese patients with type 2 diabetes.	Katakami N et al.	糖尿病内分泌内科
Biochem Biophys Res Commun.	Role of angiotensin II-mediated AMPK inactivation on obesity-related salt-sensitive hypertension.	Deji N et al.	腎臓内科
J Am Soc Hypertens.	The effects of blood pressure control levels on the renoprotection of type 2 diabetic patients without overt proteinuria.	Uzu T et al.	腎臓内科
Biochem Biophys Res Commun.	Fructose induces tubulointerstitial injury in the kidney of mice.	Aoyama M et al.	腎臓内科

小計

16

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Exp Diabetes Res.	Autophagy as a therapeutic target in diabetic nephropathy.	Tanaka Y et al.	腎臓内科
Nat Commun	Regulation of histone modification and chromatin structure by the p53-PADI4 pathway.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Cancer Sci	Characterization of an Opa interacting protein 5 involved in lung and esophageal carcinogenesis.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Neoplasia	Histone lysine methyltransferase Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1 is involved in human carcinogenesis through regulation of the Wnt pathway.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Clin Cancer Res	Chondrolectin is a novel diagnostic biomarker and a therapeutic target for lung cancer.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Clin Cancer Res	Identification of Epstein-Barr virus-induced gene 3 as a novel serum and tissue biomarker and a therapeutic target for lung cancer.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Clin Cancer Res	Characterization of a cleavage stimulation factor, 3' pre-RNA, subunit 2, 64 kDa (CSTF2) as a therapeutic target for lung cancer.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Lung Cancer	Overexpression of KIAA0101 predicts poor prognosis in primary lung cancer patients.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Mol Cancer	Minichromosome Maintenance Protein 7 is a potential therapeutic target in human cancer and a novel prognostic marker of non-small cell lung cancer.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Cancer Sci	Validation of the histone methyltransferase EZH2 as a therapeutic target for various types of human cancer and as a prognostic marker.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
PLoS One	A comprehensive peptidome profiling technology for the identification of early detection biomarkers for lung adenocarcinoma.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Proteome Sci	Deglycosylation and label-free quantitative LC-MALDI MS applied to efficient serum biomarker discovery of lung cancer.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Pediatr Blood and Cancer 2011; 57(1):36-40. 5	Continuous and High-Dose Cytarabine Combined Chemotherapy in Children with Down Syndrome and Acute Myeloid leukemia: Report from the Japanese Children's Cancer and Leukemia Study Group (JCCLSG) AML 9805 Down Study.	Taga T, et al.	小児科
Blood 2011; 117(26):7102-11.	Prognostic significance of additional cytogenetic aberrations in 733 de novo pediatric 11q23/MLL-rearranged AML patients: results of an international study.	Coenen EA, et al.	小児科

小計

14

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Human Pathology. 2011; 42 (1) : 141-145.	Expression of megakaryocytic and myeloid markers in blasts of transient abnormal myelopoiesis in a stillbirth with Down syndrome: report of histopathological findings of an autopsy case.	Ishigaki H, et al,	小児科
J Med Virol. 2011; 83 (9) :1582-4	Epstein-Barr virus-related lymphoproliferative disorder, cytomegalovirus reactivation, and varicella zoster virus encephalitis during treatment of medulloblastoma.	Ohta M, et al,	小児科
Birth Defects Res (Part B) 2011; 92: 10-16.	Developmental defects of coronary vasculature in rat embryos administered bis-diamine.	Hanato T, et al.	小児科
J Infect Chemother 2011; 17: 254-63.	Nationwide survey of severe respiratory syncytial virus infection in children who do not meet indications for palivizumab in Japan.	Mori M, et al.	小児科
Brain Dev 2011; 33: 174-176.	A Japanese patient with Kabuki syndrome and unilateral perisylvian cortical dysplasia.	Yoshioka S, et al.	小児科
J Pediatr Gastroenterol Nutr 2011; 52: 362-365.	Compound heterozygote of a novel missense mutation (p. K402T) and a double missense mutation (p. [G71R;Y486D]) in type II Crigler-Najjar syndrome.	Maruo Y, et al.	小児科
Scand J Infect Dis 2011; 43: 553-555.	Group A streptococcal brain abscess: a case report and a review of the literature since 1988.	Hayashi A, et al.	小児科
Pediatr Res 2011; 70 (5) : 453-457.	Inhibitory effect of 5 $\beta$ -pregnane-3 $\alpha$ , 20 $\beta$ -diol on transcriptional activity and enzyme activity of human bilirubin UDP-glucuronosyltransferase.	Ota Y, et al.	小児科
Epilepsy Res 2011; 96: 1-10.	Seizure susceptibility in polymicrogyria: clinical and experimental approaches.	Takano T	小児科
日本臨床外科学会雑誌・72 (10) : 2723~2729・2011	鼠径ヘルニア偽還納の1例	小島 正継	消化器外科 乳腺・一般外科
Cancer Science・102 (9) : 1724~1733・2011	Prognostic role of CD10+ myeloid cells in association with tumor budding at the invasion front of	Do Trong Khanh	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・72 (10) : 2676~2680・2011	術前診断したS状結腸間膜窩ヘルニアの1例	矢澤 武史	消化器外科 乳腺・一般外科
侵襲と免疫・20 (2) : 2~10・2011	侵襲下における生体反応の個体差	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
日本外科系連合学会雑誌・36 (1) : 6~13・2011	日本ヘルニア学会「鼠径部ヘルニアの分類改訂版」と手術術式の検討	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
月刊糖尿病・3 (9) : 75~79・医学出版・東京・2011	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	山本 寛	消化器外科 乳腺・一般外科
乳癌の臨床・26 (6) : 733~739・2011	印環細胞を有した乳腺多形型浸潤性小葉癌の1例	小島 正継	消化器外科 乳腺・一般外科

小計

16

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ベッドサイドで役立つ実践 急性血液浄化法・320~328・総合医学社・	新しい血液浄化技術	森 毅	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・72(6):1602~1606・2011	局所麻酔下経鼠径法にて修復した大腿ヘルニア術後の閉鎖孔ヘルニアの1例	赤堀 浩也	消化器外科 乳腺・一般外科
外科治療・105(5):504~507・2011	乳房Paget病の3例	太田 裕之	消化器外科 乳腺・一般外科
European Surgical Research・47:248~253・2011	Development of a novel, nearly insoluble antiadhesive membrane	Mukai Tomokazu	消化器外科 乳腺・一般外科
内分泌外科・28(4):251~254・2011	マンモトーム生検で術前診断した乳腺非浸潤性アポクリン癌の1例	河合由紀	消化器外科 乳腺・一般外科
Int J Comput Assist Radiol Surg・6(Suppl):S168~S169・	MR image guided NOTES (Natural Orifice Translumenal Endoscopic Surgery) system	Naka Shigeyuki	消化器外科 乳腺・一般外科
Int J Comput Assist Radiol Surg・6(Suppl):S240~S241・	Development of MR tracking system for the MR image guided endoscopic surgery	Murayama Hiroyuki	消化器外科 乳腺・一般外科
日本医師会雑誌・140(8):1657~1662・2011	新しい次世代の手術システム	仲 成幸	消化器外科 乳腺・一般外科
腎と透析・71(4):511~515・2011	急性肝不全による水電解質異常	仲 成幸	消化器外科 乳腺・一般外科
エンドトキシン・自然免疫研究14・23~26・医学図書出版・東京・2011	Endotoxin scattering photometry (ESP) による血中エンドトキシン評価	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
日本外科感染症学会雑誌・8(3):269~272・2011	原因不明の発熱で発症した腹部大動脈瘤術後人工血管-腸管瘻の1例	園田 寛道	消化器外科 乳腺・一般外科
滋賀医科大学雑誌・24(1):17~19・2011	透析患者に発生した乳癌の1例	北村 美奈	消化器外科 乳腺・一般外科
滋賀医科大学雑誌・24(1):27~30・2011	乳癌術後放射線照射10年後に発症した腋窩粘液線維肉腫 (myxofibrosarcoma) の1例	白波瀬 歩	消化器外科 乳腺・一般外科
滋賀医科大学雑誌・24(1):31~34・2011	再発乳癌患者に対しパクリタキセルを投与した際に発症したStevens-Johnson症候群の1例	糸井 尚子	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・72(9):2280~2284・2011	特殊な嗜好にて再発した胃石による腸閉塞の1例	岡内 博	消化器外科 乳腺・一般外科
日本外科系連合学会雑誌・36(5):787~791・2011	術前診断に難渋した肺癌小腸転移の1例	三宅 亨	消化器外科 乳腺・一般外科
滋賀医科大学雑誌・24(1):50~51・2011	新しい高感度エンドトキシン測定法の開発-それで何がわかるのか-	小幡 徹	消化器外科 乳腺・一般外科
乳癌レビュー2012・235~241・メディカルレビュー社・東京・2012	治療編 治療戦略 ガイドライン	阿部 元	消化器外科 乳腺・一般外科
癌と化学療法・39(3):385~387・2012	胃癌術後補助化学療法としてのS-1隔日経口投与法の治療経験	竹林 克士	消化器外科 乳腺・一般外科

小計

19



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg 2011; 91(4):1159-64	In Off-Pump Surgery, Skeletonized Gastroepiploic Artery is Superior to Saphenous Vein in Patients With Bilateral Internal Thoracic Arterial Grafts.	Suzuki T	心臓血管外科
Ann Thorac Surg 2011; 91(4):1176-82	Preoperative Heart Rate Variability Predicts Atrial Fibrillation After Coronary Bypass Grafting.	Kinoshita T	心臓血管外科
The Heart Surgery Forum #2010-1163 2011; 14(4):236-237	Surgical Repair of a Giant Atrial Septal Aneurysm with Patent Foramen Ovale.	Hosoba S	心臓血管外科
Circulation. 2011; 124(11 Suppl):S130-4.	Off-pump bilateral versus single skeletonized internal thoracic artery grafting in high-risk patients.	Kinoshita T	心臓血管外科
Eur J Cardiothorac surg. 2011; 40(6):1298-1303	Preoperative C-reactive protein and atrial fibrillation after off-pump coronary bypass surgery.	Kinoshita T	心臓血管外科
Ann Thorac Surg 2011; 92(6):2097-2103	Butterfly Resection Is Safe and Avoids Systolic Anterior Motion in Posterior Leaflet Prolapse Repair.	Asai T	心臓血管外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 2011; December 22	Successful management of refractory lethal coronary spasm after off pump coronary bypass grafting.	Hosoba S	心臓血管外科
Eur J Cardiothorac Surg 2012; 41(1):102-7	Preoperative hemoglobin A1c predicts atrial fibrillation after off-pump coronary bypass surgery.	Kinoshita T	心臓血管外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2012; 18(1):8-11	Early to Midterm Results of Cardiac Surgery with Concomitant Pulmonary Resection.	Hosoba S	心臓血管外科
J Biomed Mater Res B Appl Biomater 2011;98B(2):360-368	Spatiotemporal control of proliferation and differentiation of bone marrow-derived mesenchymal stem cells recruited using collagen hydrogel for repair of articular cartilage defects	Mimura T et al.	整形外科
Spine J 2011;11(5):e13-18	Thoracoscopic en bloc extirpation for subperiosteal osteoid osteoma of thoracic vertebral body: a rare variety and its therapeutic consideration	Mori K et al.	整形外科
Current Signal Transduction Therapy. 2011;6(1):82-87	Balance between S6K-S6 and 4E-BP1 depends on ERK activity in developing neurons	Nishimura I et al.	整形外科
関節外科 2011;30:615-624	関節リウマチに対する足部の手術療法	川崎 拓	整形外科
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 2011;36:472-477	特発性膝関節骨壊死に対する手術療法 -TKA, UKA, HTO, Mosaicplastyの我々の適応について-	久保 充彦 他	整形外科
中部整災誌 2011;54:1103-1104	術中体外照射骨還納法にて再建を行った仙骨軟骨肉腫の長期follow-up	西澤 和也 他	整形外科
Hip Joint 2011;37:798-800	手術を要した内側型弾発股の一例	三村 朋大 他	整形外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 51: 445-448, 2011	Heparin-induced Thrombocytopenia in a Glioblastoma Multiforme Patient With Inferior Vena Cava Filter	Nitta N et al.	脳神経外科

小計

17

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Br J Pharmacol 163: 1237-1249, 2011	PGE (2) -EP (2) receptor signaling in endothelium is activated by hemodynamic stress and induces	Aoki T et al.	脳神経外科
Lab Invest 91: 619-626, 2011	Complementary inhibition of cerebral aneurysm formation by eNOS and nNOS.	Aoki T et al.	脳神経外科
World Neurosurgery 76: 57-58, 2011	Benefits and risks of radiosurgery to brainstem arteriovenous malformations	Nozaki K	脳神経外科
Surgical Neurology International 2:61-67, 2011	Expression of thioredoxin-1 and hypoxia inducible factor-1 $\alpha$ in cerebral	Takagi Y et al.	脳神経外科
J Neurosci Res 89: 1388-1399, 2011	Single and local blockade of interleukin-6 signaling promotes neuronal differentiation from	Gomi M et al.	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 51 (5) :389-93, 2011	Subacute subdural hygroma and presyrinx formation after foramen magnum	Suzuki F et al.	脳神経外科
The Neuroradiology Journal 24:699-711, 2011	Treatment of spontaneous intradural vertebral artery dissections.	Nakazawa T, et al.	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル 20 : 484-490, 2011	UCASIIにおける未破裂脳動脈瘤治療成績：中間報告 —日本における未破裂脳動脈	森田 明夫 他	脳神経外科
泌尿紀要	シンポジウム2「尿路結石の概念を変える，治療・予防法を変える」—司会の言葉—	岡田 裕作 他	泌尿器科
泌尿紀要	エストラムスチン併用ドセタキセル化学療法により長期の病勢安定が得られた去勢抵抗性前立腺癌の1例	影山 進 他	泌尿器科
泌尿器外科	高リスクT1膀胱癌における術後膀胱内注入療法の検討	影山 進 他	泌尿器科
泌尿器外科	経尿道的前立腺切除術 (TUR-P) 後の発熱リスクの同定とリスク群に対する抗菌薬投与の検討	富田 圭司 他	泌尿器科
泌尿紀要	膀胱転移を来たした腎細胞癌の1例	和田 晃典 他	泌尿器科
MOLECULAR CARCINOGENESIS	Methylation Profile of DNA Repetitive Elements in Human Testicular Germ Cell Tumor	牛田 博 他	泌尿器科
Acta Ophthalmol	Prospective Comparisons of Intravitreal Injections of Triamcinolone Acetonide and Bevacizumab for Macular Edema due to Branch Retinal Vein Occlusion.	大路 正人	眼科
Ophthalmic Res	Comparison between One Injection and Three Monthly Injections of Intravitreal Bevacizumab for Myopic Choroidal Neovascularization.	丹羽 雄一	眼科
Retina	Combining a contact lens and wide-angle viewing system for a wider fundus view.	大路 正人	眼科
Jpn J Ophthalmol.	A case of extraocular muscle swelling due to IgG4-related sclerosing disease.	西田 保裕	眼科

小計

18

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Acta Ophthalmol	Long-term efficacy and safety of ranibizumab administered pro re nata in Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration in the EXTEND-I Study.	大路 正人	眼科
Jpn J Ophthalmol.	Negative Correlation between Aqueous Vascular Endothelial Growth Factor Levels and Axial Length.	澤田 修	眼科
Jpn J Ophthalmol.	A Case of Coats' Disease with Visual Recovery from No Light Perception Vision after Vitrectomy.	大路 正人	眼科
Acta Ophthalmol.	Endothelial Growth Factor in the aqueous humor in eyes with myopic choroidal neovascularization.	澤田 修	眼科
Ophthalmic Research	Closure of Sclerotomies after 25- and 23-Gauge Transconjunctival Sutureless Pars Plana Vitrectomy Evaluated by Optical Coherence Tomography.	澤田 智子	眼科
Anesthesiology	Sevoflurane Protects Ventricular Myocytes from Ca <sup>2+</sup> Paradox-mediated Ca <sup>2+</sup> Overload by Blocking the Activation of Transient Receptor Potential Canonical Channels	小嶋 亜希子	麻酔科
J Anesth	Results of pulsed radiofrequency technique with two laterally placed electrodes in the annulus in patients with chronic lumbar discogenic pain.	Sei Fukui, et al.	ペインクリニック科
Korean J Pain	Results of Intradiscal Pulsed Radiofrequency for Lumbar Discogenic Pain: Comparison with Intradiscal Electrothermal Therapy.	Sei Fukui, et al.	ペインクリニック科
ペインクリニック	パルス高周波法 (pulsed radiofrequency) による痛みの治療	福井 聖	ペインクリニック科
ペインクリニック	慢性椎間板性腰痛に対する椎間板内高周波熱凝固法 (IDET) の治療効果の検討	福井 聖 他	ペインクリニック科
脊椎脊髄ジャーナル	腰痛に対する新しい治療オプション 硬膜外神経形成術・パルス高周波法.	福井 聖	ペインクリニック科
ペインクリニック	慢性椎間板性腰痛に対する椎間板内パルス高周波の治療経験	福井 聖 他	ペインクリニック科
ペインクリニック	腰椎椎間板ヘルニアに対する経皮的な高周波椎間板減圧術の治療経験	福井 聖 他	ペインクリニック科
Cardiovasc Intervent Radiol. [Epub ahead of print] 2011	Enhanced Antitumor Effect of Tirapazamine Delivered Intraperitoneally to VX2 Liver Tumor-Bearing Rabbits Subjected to Transarterial Hepatic Embolization.	Sonoda A, et al.	放射線科
Korean J Radiol. 12 (3) 351-357 2011	Clinical Value of CT-Guided Needle Biopsy for Retroperitoneal Lesions	Tomozawa Y, et al.	放射線科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Comput Assist Tomogr. 35(3) 347-350 2011	Automatic liver segmentation method featuring a novel filter for multiphase multidetector-row helical computed tomography.	Hirose T, et al.	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. [Epub ahead of print] 2011	Comparison of the Anti-tumor Effects of Two Platinum Agents (Miriplatin and Fine-Powder Cisplatin).	Watanabe S et al.	放射線科
Journal of Magnetic Resonance Imaging 33: 1235-1240, 2011	Assessment of Small Bowel Motility Function With Cine-MRI Using Balanced Steady-State Free Precession Sequence	Wakamiya M et al.	放射線科
Oncology. 80(1-2); 92-96: 2011 [Epub ahead of print]	Time-Course Studies of Implanted Rabbit VX2 Liver Tumors to Identify the Appropriate Time for Starting Hepatic Arterial Embolization in Animal Models.	Sonoda A et al.	放射線科
Int J Nanomedicine. 6; 1587-1594; 2011 [Epub ahead of print]	Histological study of the biodynamics of iron oxide nanoparticles with different diameters.	Tsuchiya K et al.	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. 34(6); 1272-1277: 2011 [Epub ahead of print]	Enhanced Antitumor Effect of Tirapazamine Delivered Intraperitoneally to VX2 Liver Tumor-Bearing Rabbits Subjected to Transarterial Hepatic Embolization.	Sonoda A et al.	放射線科
Jpn J Radiol. 2011 [Epub ahead of print]	Clinical trial of cisplatin-conjugated gelatin microspheres for patients with hepatocellular carcinoma.	Toyama T, et al.	放射線科
Journal of Medical Case Reports 5; 595: 2011	Tracheo-brachiocephalic artery fistula after tracheostomy associated with thoracic deformity: a case report	Ogawa K, et al.	放射線科
Acad Radiol 2012 [Epub ahead of print]	Measurement of Focal Ground-glass Opacity Diameters on CT Images Interobserver Agreement in Regard to Identifying Increases in the Size of Ground-Glass Opacities.	Takahashi M, et al.	放射線科
Acad Radiol 2012 [Epub ahead of print]	Lung Image Quality with 320-row Wide-volume CT Scans: The Effect of Prospective ECG-gating and Comparisons with 64-row Helical CT Scans.	Takahashi M, et al.	放射線科
日本人工関節学会誌 2010;41:450-451.	高齢者特発性膝関節骨壊死に対する人工関節置換術二術式-TKAまたはUKA-の選択	久保 充彦	リハビリテーション科
中部整災誌2011;55;305-306.	セメントTHAの長期成績 当院における歴史と結果	三村 朋大	リハビリテーション科
PTジャーナル 第46巻第9号	心臓外科手術後のSuper Fast-Track Recoveryr Programと理学療法	三村 朋大	リハビリテーション科
Gait & Posture	Kinematic and Kinetic characteristics of Masai Barefoot Technology footwear.	渋川 武志	リハビリテーション科
総合リハビリテーション 40巻2号	慢性呼吸不全患者の身体活動量に影響を及ぼす因子の検討	岩井 宏治	リハビリテーション科

小計

15

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
臨床リウマチ 2011;23:119-125.	両側胸水を伴ったRemitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edemas syndromeの1例	菊地 克久	リハビリテーション科
リハビリテーション科診療 近畿地方会2011年第1号 (通刊11号)	大腿骨近位部骨折の術後歩行機能と認知症の関係	笠原 俊幸 他	リハビリテーション科
Cardiovasc Electrophysiol 2011 ;22:350	Remission of Abnormal Conduction and Repolarization in the Right Ventricle After Chemotherapy in Patients With Anterior Mediastinal Tumor.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Circ J. 2011;75(4):844	Risk determinants in individuals with a spontaneous type 1 Brugada ECG.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Heart Rhythm 2012;9(1):66-74	Clinical and electrocardiographic characteristics of patients with short QT interval in a large hospital-based population.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Circulation Cardiovasc Genet 2011;4(5):e20	Heritability of early repolarization: a population-based study	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
INTEC 2011	Prognostic Value of P Wave for Developing Atrial Fibrillation. Atrial Fibrillation - Basic Research and Clinical Applications.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Circ J 2011;75(4):844.	Risk determinants in individuals with a spontaneous type 1 Brugada ECG.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology 2012 Jun 1;5(3):506-13	Early Repolarization is an Independent Predictor of Occurrences of Ventricular Fibrillation in the Very Early Phase of Acute Myocardial Infarctions	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Internal Medicine 2012;51(14):1941	J-point Elevation Induced by Double Master Two-step Test.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
Internal Medicine 2012;51(15):1987-90	Agranulocytosis Immediately after Oral Administration of Cibenzoline and Dabigatran in a Patient with Paroxysmal Atrial Fibrillation.	Hayashi H et al.	リハビリテーション科
心臓リハビリテーション学会誌 2012;17:93-97	心大血管術後の愁訴が有酸素運動の開始に与える影響	平岩 康之 他	リハビリテーション科
日本顎関節学会雑誌 23巻1号	強迫性障害を背景に有する患者における開口障害を伴う咀嚼筋・腱膜過形成症の1例	越沼 伸也 他	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌 57巻7号	上顎洞に進展した腺腫様歯原性腫瘍の1例	久木 有加 他	歯科口腔外科
日本歯科医師会雑誌 64巻5号	シリーズ・身近な臨床・これからの歯科医のための臨床講座37 口腔領域における局所止血について	西川 正典 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌24巻3号	頬粘膜上皮内癌患者のスクリーニングとして行った上部消化管内視鏡検査により食道癌が発見された重複癌の1例	山元 貴弘 他	歯科口腔外科

小計

16

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
日本口腔診断学会雑誌 24巻3号	下顎骨下縁にまで増大した骨形成線維腫に対し、CT分析により保存的処置を施行した1例	佐藤 翔 他	歯科口腔外科
滋賀医科大学雑誌 24巻1号	即時荷重インプラントにより咬合機能回復を行った1例	西川 正典 他	歯科口腔外科
Circulation Journal	Lipocalin-type Prostaglandin D synthase is associated with coronary vasospasm and vasomotor reactivity in response to acetylcholine.	Matsumoto T et al.	救急・集中治療部
J Gastroen Hepatol	Homing of the Bone Marrow-Derived Interstitial Cells of Cajal Is Decreased in Diabetic Mouse Intestine.	Li Y et al.	救急・集中治療部
Therapeutic Apheresis and Dialysis	Plasma Diafiltration Therapy in Patients With Postoperative Liver Failure.	Nakae H et al.	救急・集中治療部
Kidney Int.	Fenofibrate, a PPAR $\alpha$ agonist, has renoprotective effects in mice by enhancing renal lipolysis.	Tanaka Y et al.	腎臓内科/血液浄化部
Clin Exp Nephrol.	Association between single nucleotide polymorphisms within genes encoding sirtuin families and diabetic nephropathy in Japanese subjects with type 2 diabetes.	Maeda S et al.	腎臓内科/血液浄化部
Free Radic Biol Med.	SIRT3 attenuates palmitate-induced ROS production and inflammation in proximal tubular cells.	Koyama T et al.	腎臓内科/血液浄化部
Kidney Int.	Furosemide-associated nephrocalcinosis and renal cysts.	Uzu T et al.	腎臓内科/血液浄化部
Diabetologia.	Genetic variants at CDC123/CAMK1D and SPRY2 are associated with susceptibility to type 2 diabetes in the Japanese population.	Imamura M et al.	腎臓内科/血液浄化部
Diabetes.	Nutrient sensing, autophagy, and diabetic nephropathy.	Kume S et al.	腎臓内科/血液浄化部
Biochem Biophys Res Commun.	Role of angiotensin II-mediated AMPK inactivation on obesity-related salt-sensitive hypertension.	Deji. N et al.	腎臓内科/血液浄化部
J Am Soc Hypertens.	The effects of blood pressure control levels on the renoprotection of type 2 diabetic patients without overt proteinuria.	Uzu T et al.	腎臓内科/血液浄化部
Biochem Biophys Res Commun.	Fructose induces tubulointerstitial injury in the kidney of mice.	Aoyama M et al.	腎臓内科/血液浄化部
Exp Diabetes Res.	Autophagy as a therapeutic target in diabetic nephropathy.	Tanaka Y et al.	腎臓内科/血液浄化部
Eur J Physiol, 463:649-668, 2012	Postnatal development decline in IK1 in mouse ventricular myocytes isolated by the Langendorff perfusion method: comparison with the chunk method	Hoshino S, et al	臨床研究開発センター

小計

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門	
日本小児臨床薬理学会雑誌、24:86-89, 2011	小児薬物療法における薬物相互作用に関する医薬品の処方実態	藤田 彩子 他	臨床研究開発センター	
Clin. Lung Cancer, 12 (5), 307-312, 2011	Plasma and pleural fluid pharmacokinetics of erlotinib and its active metabolite OSI-420 in patients with non-small-cell lung cancer with pleural effusion.	Terada T et al.	薬剤部	
Lipids, 46 (4), 323-332, 2011	Presence of apolipoprotein C-III attenuates apolipoprotein E-mediated cellular uptake of cholesterol-containing lipid particles by HepG2 cells.	Morita S et al.	薬剤部	
Chem. Pharm. Bull., 59 (6), 793-796, 2011	Efficient topical delivery of chlorogenic acid by an oil-in-water microemulsion to protect skin against UV-induced damage.	Morita S et al.	薬剤部	
FEBS J., 278 (24), 1768-4781, 2011	Effects of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase on phospholipid composition, microvillus formation and bile salt resistance in LLC-PK1 cells.	Morita S et al.	薬剤部	
J. Lipid Res., 53 (2), 325-330, 2012	Enzymatic measurement of phosphatidylserine in cultured cells.	Morita S et al.	薬剤部	
J. Clin. Biochem. Nutr., 48 (3), 183-186, 2011	Resting energy expenditure in patients undergoing pylorus preserving pancreatoduodenectomies for bile duct cancer or pancreatic tumors.	Okamoto H et al.	薬剤部	小計
J. Clin. Biochem. Nutr., 49 (3), 169-173, 2011	Resting energy expenditure and nutritional status in patients undergoing transthoracic esophagectomy for esophageal cancer.	Okamoto H et al.	薬剤部	8
				計
				211

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 柏木 厚典			
管理担当者氏名	総務課長 大埜 生雄 薬剤部長 寺田 智祐	医療サービス課長 小林 哲郎 放射線部長 村田 喜代史	病院管理課長 大見 章	
		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	診療録等の病歴資料(紙カルテ分)は、外来・入院別に1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類している。入院診療録は①退院日から10年間は現物保管、②退院日から10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄している。また、外来診療録は①最終受診日から10年間は現物保管、②最終受診日から10年を経過し、入院歴のあるものは光ファイリングののち廃棄、③入院歴のないものはそのまま廃棄している。エックス線写真は最終来院日より6年、死亡患者については5年の保存を原則としている。これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課		
	高度の医療の実績	病院管理課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	閲覧実績	医療サービス課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部		
	項規第一号に掲げる第一項各号及び第九条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全管理部		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		感染制御部		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全管理部		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		医療サービス課		



(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び諸記録の管理運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び  
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 柏木 厚典
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 小林 哲郎
閲覧の求めに応じる場所	医療サービス課 面談室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	71.3 %	算定期間	平成23年 4月 1日 ~ 平成24年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	11,607人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,291人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,379人	
	D: 初診の患者の数	23,748人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	① (有) ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>・ 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項</li> <li>・ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>・ 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>・ 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>・ 患者からの相談への対応に関する基本指針</li> <li>・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療事故防止対策の企画立案に関すること</li> <li>・ 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること</li> <li>・ 医療事故の防止に係る教育及び研修に関すること</li> <li>・ 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること</li> <li>・ 医薬品業務手順書の作成又は変更に関すること</li> <li>・ 医療事故防止マニュアルに関すること</li> <li>・ 医療事故に係る公的機関への報告及び公表等に関すること</li> <li>・ 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること</li> <li>・ その他医療事故、医事紛争及び訴訟に関すること</li> </ul> <p>(別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」参照)</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( (有) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。</li> <li>・ 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。</li> <li>・ 院内ラウンドによるチェックを行っている。</li> </ul> </li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	⑤ (有) ( 2 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑥ (有) ( 3 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑦ (有) ・ 無
<p>所属職員： 専任( 5 )名 兼任( 15 )名</p> <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療事故防止及び感染予防対策の推進に関すること</li> <li>・ 医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること</li> <li>・ インシデント報告の調査及び分析に関すること</li> <li>・ 安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関すること等</li> </ul> <p>(別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程」、「滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程」参照)</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じられる体制の確保状況	⑧ (有) ・ 無

# 滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

平成16年4月1日制定

平成23年3月31日改正

## (設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における医療事故の防止に関する基本的事項を審議するため、医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故防止対策の企画立案に関すること。
- (2) 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。
- (3) 医療事故の防止に係る教育及び研修に関すること。
- (4) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。
- (5) 医薬品業務手順書の作成又は変更に関すること。
- (6) 医療事故防止マニュアルに関すること。
- (7) 医療事故に係る公的機関への報告及び公表等に関すること。
- (8) 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること。
- (9) その他医療事故、医事紛争及び訴訟に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
- (3) 副病院長（経営・業務改善・事務総括担当）
- (4) 医療情報部長
- (5) 感染制御部長
- (6) 臨床医学講座及び病院の教員（前号に掲げる者を除く。） 若干名
- (7) 医薬品安全管理責任者
- (8) 医療機器安全管理責任者
- (9) 副看護部長 1名
- (10) ゼネラルリスクマネジャー
- (11) 病院管理課長
- (12) 医療サービス課長
- (13) その他委員長が必要と認める者

2 前項第6号及び第13号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、

再任を妨げない。

3 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第9号の委員は、看護部長の推薦により病院長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、病院長をもって充て、副委員長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 委員長は、委員会を召集しその議長となる。

4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

5 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(医療事故調査委員会)

第6条 委員会に、重大な医療事故が発生した場合における事故原因の調査究明及び必要な対応策について審議するため、必要に応じ医療事故調査委員会を置く。

2 医療事故調査委員会について必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務は、医療安全管理部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年9月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

# 滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程

平成16年4月1日制定

平成24年3月13日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第11条第10項の規定に基づき、医療安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 安全管理部は、病院における医療事故の防止による医療の安全性の向上を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 安全管理部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長
- (3) ゼネラルリスクマネジャー（以下「GRM」という。）
- (4) 教員及び医療技術職員 若干名
- (5) 病院管理課長
- (6) 医療サービス課長
- (7) 医療サービス課職員 若干名
- (8) その他部長が必要と認める者

2 部長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 部長は、安全管理部の業務を統括する。

4 副部長は、GRMをもって充てる。ただし、部長が、GRMとは別に副部長を必要と認めた場合は、部長の推薦を経て病院長が指名することができる。

5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、あらかじめ部長が指名した副部長がその職務を代行する。

6 GRMは、安全管理部の専任教員及びリスクマネジメント担当の専従の看護師長をもって充てる。

7 GRMは、部長の命を受け安全管理部の所掌業務を処理するほか、リスクマネジャーの指導、医療安全管理委員会との連絡調整を行う。

8 教員及び医療技術職員は、部長の命を受け、安全管理部の業務に従事する。

9 医療サービス課職員は、部長の命を受け、安全管理部の事務に従事する。

(業務)

第4条 安全管理部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 医療事故防止の推進に関すること。
- (2) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) インシデント報告の調査及び分析に関すること。

- (4) 医療事故防止に関する事例，対策等の情報収集に関すること。
- (5) 医療事故防止に係る教育，研修等の企画及び実施に関すること。
- (6) 医療事故防止に関する院内巡視，記録等の点検及び評価に関すること。
- (7) 医療事故防止に関するマニュアルの作成に関すること。
- (8) 医療事故防止に関する広報・啓発活動に関すること。
- (9) リスクマネジャーの会議等に関すること。
- (10) その他医療事故防止に関すること。

2 安全管理部は、医療事故等が発生した場合において、「医療事故発生時における対応指針」（平成12年7月19日制定）及び「滋賀医科大学医学部附属病院医療事故等発生時の報告に関する取扱要項」（平成15年5月21日制定）を踏まえ、関係委員会と連携し、対応するものとする。

（インシデント検討会）

第5条 安全管理部に、インシデントの再発防止策を検討するため、インシデント検討会を置く。

2 インシデント検討会の組織及び運営に関し必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（リスクマネジャー会議）

第6条 安全管理部に、医療事故防止のための検討事項及び具体的な改善計画等の情報を伝達するため、リスクマネジャー会議を置く。

2 リスクマネジャー会議について必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（ワーキンググループ）

第7条 部長が必要と認めたときは、安全管理部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は、安全管理部が別に定める。

（その他）

第8条 この規程に定めるもののほか、安全管理部の運営に関し必要な事項は、安全管理部が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月18日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月17日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年5月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月20日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。



## 滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程

平成20年6月1日制定

平成24年3月13日改正

### (趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第11条第10項の規定に基づき、感染制御部の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 感染制御部は、病院における院内感染予防対策に関する業務を円滑に遂行することを目的とする。

### (組織)

第3条 感染制御部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長 若干名
- (3) インфекションコントロールドクター (ICD) 若干名
- (4) 感染管理看護師 (ICN) 若干名
- (5) 教員及び医療技術職員 若干名
- (6) 病院管理課長及び医療サービス課長

2 部長は、臨床医学講座若しくは病院の教員のうちより病院長が指名する。

3 部長は、感染制御部の業務を統括する。

4 副部長は、病院の関係職員より部長の指名を経て、病院長が委嘱する。ただし、副部長のうち1名は専任感染管理看護師をもって充てる。

5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、その職務を代行する。

6 第1項第3号から第5号までの職員は、部長の命を受け、感染制御部の業務に従事する。

### (業務)

第4条 感染制御部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 感染予防対策の推進に関すること。
- (2) 感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) 感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。
- (4) 感染予防対策マニュアルに基づく実施状況の点検に関すること。
- (5) 院内感染発生時における感染の制御及び原因究明に関すること。
- (6) 感染予防対策の教育、研修等の企画及び実施に関すること。
- (7) その他感染予防対策に関すること。

### (感染対策チーム)

第5条 感染制御部に、具体的な感染予防対策を実施するために、感染対策チームを置く。

2 感染対策チームの組織及び運営に関し必要な事項は、感染制御部が別に定める。

(感染リンクスタッフ)

第6条 感染予防対策の活動を支援するため、各診療科、各病棟、中央診療部門及び中央手術部門の各部並びに薬剤部に次の各号に掲げる感染リンクスタッフを置く。ただし、やむを得ない事由がある場合は、この限りでない。

- (1) 各診療科の長から推薦された教員
- (2) 各病棟、中央診療部門及び中央手術部門の各部の看護師長から推薦された看護職員
- (3) 中央診療部門及び中央手術部門の各部並びに薬剤部の長から推薦された教員又は医療技術職員

2 感染リンクスタッフは、部長が指名し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員により補充された感染リンクスタッフの任期は、前任者の残任期間とする。

(ワーキンググループ)

第7条 部長が必要と認めたときは、感染制御部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は感染制御部が別に定める。

(事務)

第8条 感染制御部の事務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、感染制御部の運営に関し必要な事項は、感染制御部が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成20年6月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に指名される第6条の感染リンクスタッフの任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成22年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>・ 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項</li> <li>・ 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li> <li>・ 発生症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応の基本方針</li> <li>・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防対策の企画立案に関すること</li> <li>・ 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること</li> <li>・ 感染予防対策マニュアルに関すること</li> <li>・ 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること</li> <li>・ 感染源の調査に関すること</li> <li>・ 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること</li> <li>・ その他感染予防対策に関すること</li> </ul> <p>(別添「滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程」、「滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規」参照)</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。</li> <li>・ 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。</li> <li>・ 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。</li> </ul>	

# 滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程

平成16年4月1日制定

平成23年3月31日改正

## (設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における感染予防対策について検討するため、感染予防対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 感染予防対策の企画立案に関すること。
- (2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。
- (3) 感染予防対策マニュアルに関すること。
- (4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。
- (5) 感染源の調査に関すること。
- (6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。
- (7) その他感染予防対策に関すること。

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
- (3) 副病院長（経営・業務改善・事務総括担当）
- (4) 感染制御部長
- (5) 感染対策チーム長
- (6) 産業医
- (7) 薬剤部長
- (8) 検査部長
- (9) 看護部長
- (10) 専任感染管理看護師
- (11) 病院管理課長
- (12) 医療サービス課長
- (13) その他委員長が必要と認める者

2 前項第13号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長3名を置き、委員長は病院長をもって、副委員長は副病院長（総括・リスクマネジメント担当）、副病院長（経営・業務改善・事務総括

担当) 及び感染制御部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月17日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年9月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

## 滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規

平成20年6月1日制定

平成23年3月31日改正

### (趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程第5条第2項に基づき、感染対策チーム（以下「ICT」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

### (業務)

第2条 ICTの職員は、感染制御部長の命を受け、次の業務を行う。

- (1) 感染予防対策マニュアルに基づく実施状況の点検に関すること。
- (2) 院内感染発生時における感染の制御に関すること。
- (3) 感染予防対策の教育に関すること。
- (4) 感染予防対策の実施に係る監視及び調査に関すること。
- (5) その他感染予防対策に関すること。

### (組織)

第3条 ICTは、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) インфекションコントロールドクター（ICD） 若干名
- (2) 診療科の教員 若干名
- (3) 臨床検査技師 若干名
- (4) 薬剤師 若干名
- (5) 看護師長及び副看護師長 若干名
- (6) 感染管理看護師 若干名
- (7) 医療サービス課職員 若干名
- (8) その他第4条第1項に規定するチーム長が必要と認める者

2 前項の職員は、感染制御部長の推薦に基づき、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員により補充された職員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (チーム長及び副チーム長)

第4条 ICTにチーム長及び副チーム長を置き、前条第1項に掲げる職員のうちから、チーム長については感染制御部長が、副チーム長についてはチーム長が指名する。

2 チーム長は、必要に応じICTを召集し、第2条に掲げる業務を行う。

3 副チーム長は、チーム長を補佐し、チーム長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 チーム長は、活動状況を必要に応じ感染制御部長に報告するものとする。

(事務)

第5条 ICTの事務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、ICTの運営に関し必要な事項は、ICTが別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年6月1日から施行する。
- 2 滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム規程（平成19年4月17日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年6月29日（木）に講演会を開催</li> <li>テーマ：「麻薬管理システムについて」「特定生物由来製剤管理システムについて」</li> <li>講師：滋賀医大病院薬剤部・治験管理室 東岸由里子</li> </ul> </li> <li>平成23年12月8日（木）に講演会を開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ：真心を込めたジェネリック医薬品：メーカーの取り組みと挑戦」</li> <li>講師：沢井製薬代表取締役社長 澤井光郎</li> <li>テーマ：本院における後発医薬品の採用基準と選定の実際</li> <li>講師：滋賀医大病院薬剤部・薬剤部長 寺田智祐</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 ( (有) ・ 無 )</li> <li>・ 業務の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年4月 業務内容の変更に伴い、手順書の改定を行った。（第5版）</li> <li>平成24年3月 業務手順書に準じた業務実施状況の確認を行った。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品添付文書情報は、改訂の都度メーカーに請求して差し替えている。また、電子カルテ内の添付文書情報も逐次更新している（オーダー時に参照可能）。</li> <li>医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信した。添付文書情報以外に、薬剤部で作成した後発医薬品一覧や術前中止薬一覧等が収載され、オーダー時に閲覧可能である。</li> <li>医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）の安全性情報メールを薬剤師全員が受信するようにした。必要に応じ病院全職員にも配信を行っている。</li> </ul> </li> </ul>	



